

滋賀・比良山地 テント縦走

T野

メンバー：T野・H口芳・K野・A原・T山

2024年4月27日～28日



イワカガミロードで花が豊富にあって楽しめる。

■写真下 北比良峠付近から武奈ヶ岳を望む。

琵琶湖の西側に、たおやかに横たわる大きな山並みがある。今回訪れた比良山地である。その名を知ったのは30代前半の頃。当時、関西に山友がいて、その人からよく話題に出てくる山の名前だった。その人は関西独特のイントネーションで「比良山（ヒラサン）」と呼び、それが、まるで親しい人の名を呼ぶような、何ともほんわかとした優しい雰囲気、この山への愛着がにじみ出ているようだった。ただ、実際のところ、「比良山（ヒラサン）」という名の山は存在せず、あまり目

立たないピークで「比良岳」という山が存在するのみで、どうやら地元の人々の言う「比良山（ヒラサン）」とは、比良山地の山々をまとめて呼ぶ愛称のようなものらしい。実は、このような例は他にもあり、良く知られているのは、八ヶ岳であろう。八ヶ岳という名の山はないが八ヶ岳連峰はまとめて「八つ」という愛称で全国の山屋に親しまれている。

「大雪山」なんていうのもそれに該当する。探せば結構あるものだ。

■写真上3枚 比良山地のイン谷口登山道は

「比良山（ヒラサン）」の話に戻そう。



関西主要都市から気軽にアプローチできるこの山域は、日本海側からの季節風をまともに受けるので、意外にも冬はしっかり雪が積もり、雪山入門や山スキー入門の山として親しまれている。また、無雪期にも日帰りハイクはもちろん、関西の山では珍しくテントが張れる場所があり、「比叡比良トレイル」を完歩すれば約55km、2泊3日の本格的なテント縦走も楽しめるのだ。さらに、良く調べてみると、沢登りのルートも豊富にあり、要は季節を問わず関西の山屋に愛されている山ということがわかる。



- 写真上 快適なテンバ、北比良峠。
- 写真中 八雲ヶ原の湿原。
- 写真下 武奈ヶ岳へのビクトリロード！！

ただ、30代の頃の僕にとっては他に魅力的な山が目白押しで、この山にそれほど魅力を感じることはなく、「へーそういう山なんだ、楽しそうだね・・・」などと適当に話を合わせていたような記憶が残っている。ただ、「比良山（ヒラサン）」という、何とも優しく穏やかそうな名前は、その頃の山友の記憶とともに僕の頭の中にインプットされていたのだった。



ところで、今回は当初、山スキーで妙高・火打山辺りを1泊で考えていたが、事前の天気予報がパツとせず、楽しめそうなのは1日だけで、メンバーもA原さんとふたりだけ・・・。コストパフォーマンスを考えるとテンションも今一つ上がらなかった。ここで、A原さんが力技を仕掛ける！！



「1日だけしか山スキーができないのなら、わたしゃー、一人でも比良山地の縦走をしたい！！蓬莱山のスイセンがスゴイことになっているらしいよ！！」と代案を出してきた。ここでA原さんが抜けたら、僕は一人ではないか！！ますますテンションが下がる。そんな状況の中で、比良山地と聞いて30代の頃の記憶をふと思い出し、「そうか、その計画に乗るのも悪くないなあー」と思いエントリーを表明。気づけば続々とメンバーが集まっていて、最終的には5名・・・！！にぎやかな山行になりそうでだんだん楽しくなってきた。

ということで、詳細の報告はリーダーのA原さんをお願いすることにして、僕も印象に残ったことを少し報告しようと思う。

まずはアプローチ・・・。土地勘がなく、どこで仮眠できるかは出たとこ勝負みたいな感じだったが、それは名古屋からK野ちゃんが参加したことで、彼の豪華マンションに仮眠の場を求めることができ無事解決！！さらに、名古屋まで約300km運転を頑張れば、あとはK野ちゃんが運転を引き継いでくれたので非常に楽ができた。この方法なら関西も全然遠くない！！K野ちゃん、関西方面に行くときはぜひ、またこの方法で一緒しましょう！！

■写真上 武奈ヶ岳山頂！！

■写真中上 北比良峠で外宴会！！

■写真中下 北比良峠からの琵琶湖の夜景。

■写真下 北比良峠の夜明け！！

比良山地1日目の登りはまさに、イワカガミロード！！見事な群落が続き、白花もあって、目を楽しませてくれる。イワカガミロードが終わるとイワウチワ、シャクナゲなども咲いていて「花が豊富な山！！」という印象が残った。ただ、シャクナゲの木が多い割に花が少なく、Tさんは「今年は裏よ、裏！！」とバツサリ！！ハズレ年を強



調する。それでも2日目の縦走路では咲き始めたてのシャクナゲが、初々しい可憐な花を咲かせ見応えがあった。

北比良峠のテンバは水場がないのが難点だが、ロケーションは最高！！琵琶湖が眼前に広がる。それにしてもさすが日本一！！琵琶湖ってでかい！！

ここでテントを設営し、日帰り装備でその日のうちに武奈ヶ岳を目指す。最初は下りで八雲ヶ原へ。10分ほどで沢沿いの道となり、水はここで採れる。八雲ヶ原も快適なテンバでこちらは水も豊富。池を泳ぐイモリに釣りが大好きなホリホリが目を輝かせていたが、これは釣ってはいけません！！池の脇には、当社が発売したシングルウォールテントを設営している方がいたので、つい、親近感を覚えて声をかけ、許可をもらってテントの撮影をさせていただく。北比良峠か八雲ヶ原か、テンバのチョイスは、景色を選ぶか、水



を選ぶかで、これは好み次第だ。

- 写真上 稜線はところどころにシャクナゲの群落が・・・！！
- 写真中 墨絵のように幾重にも重なる山並み。
- 写真下左 堂満岳にて。
- 写真下右 南比良峠付近は小川の流れる気持ちの良い森が続く。

武奈ヶ岳は近くに見えるが意外に遠く、北比良峠から1時間10分かけて登頂。ここは比良山地の最高峰。日本200名山にも入る名峰である。主稜線から外れていて、不便な場所にあるが山容の立派さは比良山地の山ではピカイチ、景色も申し分なく琵琶湖はもちろん、日本海ま



で見渡すことができる。土地勘がないゆえ、伊吹山くらいしか判別できないが、墨絵のように幾重にも連なる山並みが美しい！！しっかり景色を堪能したら別ルートで北比良峠に戻る。今日は5人用テントのVS-50の他に、来年発売予定のシングルウォール前室付シェルターの試作を持参した。重量約750gでレインジャケットの収納袋に無理なく収まる。幸い雨は降らなかったため防水試験はできなかったが、結露の試験はできた。乾燥した稜線では結露は全く気にならないレベルで満足。



一通りの準備を終えればあとは外宴会！！気温も高く快適。暗くなると琵琶湖周辺の夜景と、降るような星空が楽しめる。流れ星1つと人工衛星を確認。K野ちゃんがスマホのアプリで主な星や星座を特定してくれる。なかなか便利なアプリである。沢登りばかりしていると、こういう空の広がりを実感することはめったにないので新鮮な体験だった。酒が進むにつれ気持ち良くなり、A原さんのグリーンカレーに舌鼓を打つ頃は立派な酔っ払いが出来上がっていた。



■写真上 烏谷山山頂からは白山の白い頂が望めた。

■写真中 比良岳は森の中。

■写真下 蓬萊山のスイセンの大群落！！

2日目、ご来光は琵琶湖からではなく、残念ながら山の端から、それでも快晴に恵まれ、今日は常に琵琶湖を眼下に望みながらのトレッキングだ。歩き出して



20分ほどで、この山域で一番インパクトのある名前、その名も「金糞峠」に着く。それにしてもすごい名前で、武奈ヶ岳の名を忘れても「金糞峠」の名はきっと忘れることはないだろう。ここは稜線上にもかかわらず、すぐ下に沢があり、テンバとしても使える。願わくばこの名前が、テンバゆえの名前でないことを祈るばかりである。（当然違うと思うが・・・。）

■写真上 スイセン凄っ！！

■写真中 武奈ヶ岳とスイセン！！

■写真下 琵琶湖を眼下に快適トレール！！



堂満岳は、岩壁を持つ荒々しい山容で、登りごたえのあり、山頂には今が盛りのシャクナゲが咲き誇っていて、眼下にドツカンと琵琶湖が広がる気持ちの良い山頂だ。さらに、南比良峠・荒川峠・烏谷山・比良岳と歩くが、印象としては稜線なのところどころに小川が流れ、水に恵まれた明るく気持ちの良い森が続き、関東でいえば足尾の仁田元沢源頭の稜線に少し似ているように思えた。烏谷山の山頂も眺望が開け、伊吹山の左後方に何と白い山並みが！！どう見ても加賀の名山「白山」だ！！関西の山からまさか白山がこんなに間近に望めるとは思わなかったのでちょっと感動した。森の中にある比良岳を越え、木戸峠まで行くと目の前にグレンデが見えてきて、今までの深山幽谷の雰囲気はなくなり現実の世界に引き戻される。グレンデの登りが、傾斜が急で地味にきつい。ロープウェイの山頂駅のある打見山まで登ると、もうここは観光地だ。ただ観光地と



分かっているが、蓬萊山の山腹に広がるスイセンの大群落はスゴイ！！黄色がメインだが、白花



もあり、とにかく花・花・花である！！ここは無料でリフトにも乗れるのだが、我々はしっかり歩いて堪能する。

Tさんは、下りがシンドイので「小女郎峠まで行って、再びここに戻ってロープウェイで降りたい。」と言い出すが、メリットがあまり感じられないので皆で説得して予定のルートを歩くことにする。小女郎峠までは快適な稜線散歩。眼下に琵琶湖の大きさを実感しながら歩く。ただ、小女郎峠からの下山は急降下で結構大変。登ってくる人が意外に多く、こんな急な道を「よくぞ！！」と感心する。車道まで降りるとTさんは足の痛みに耐えられず、サンダルに履き替えて歩いていた。しかし、山が浅いからか、湖西線の駅まで直接降りられるので便利である。

2日間で約23km、約58000歩と結構歩いた。沢登りや山スキーだと、どんなに歩いてもここまでは歩数が伸びないので歩数を意識し始めて初めての数字かもしれない。久しぶりに縦走をしたが、

それが新鮮で楽しく、メンバー全員が穏やかな気持ちでこの縦走を堪能していた。

下山後、湖西線とタクシーを乗り継ぎK野車を回収。これも旅っぽくて良い。そして、温泉に入ってさっぱりし、琵琶湖湖畔の無料のキャンプ場で泊まる。水辺だからか、自慢のシングルウォールシェルターは結露でビショビショ。やっぱりテントとは違うと思っていたが、ダブルウォールのテントの内側も同様にビショビショだった。昨日は全く結露しなかったのに、条件でこうも違うものなのか・・・という感じである。やはり水辺のキャンプは結露しやすいようだ。

最終日の3日目は石垣が半端ない名古屋城や、朝ドラの「虎と翼」の舞台となった裁判所を見学。ここはK野ちゃんの独壇場だ。最後は大盤振る舞いで名古屋名物「ひつまぶし」で締める。急に集まったメンバーだったが、良いメンバーで楽しんだ3日間であった。A原さんの力技に感謝！！

■写真 石垣自慢の名古屋城！！